

慢性期における脳卒中を含む循環器病診療の質の評価に関する研究

研究代表者 安田 聡 国立循環器病研究センター 副院長

研究要旨：

① 慢性期における脳卒中を含む循環器病診療及び急性期診療との診療連携体制の現状把握 ② 循環器病の再発や増悪による再入院の予防、急性期診療と慢性期診療のシームレスな連携のための評価指標を作成 ③ 脳卒中後遺症を含む介護実態調査：宮崎県延岡市・熊本県

研究分担者	坂田 泰史	大阪大学大学院医学系研究科 教授
	辻田 賢一	熊本大学大学院生命科学研究部 教授
	中山 健夫	京都大学医学研究科健康情報学分野 教授
	豊田 一則	国立循環器病研究センター 副院長
	宮本 恵宏	国立循環器病研究センター循環器病統合情報センター センター長
	西村 邦宏	国立循環器病研究センター予防医学・疫学情報部 部長
	中尾 一泰	国立循環器病研究センター心臓血管内科
	中尾 葉子	国立循環器病研究センター循環器病統合情報センター 室長
	宍戸 稔聡	国立循環器病研究センター研究推進支援部 部長

A. 研究目的

我が国における脳卒中を含む循環器病診療の質向上へとつなげることを目的とする。循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「既存データベースの活用による虚血性心疾患・大動脈疾患診療の実態把握ならびに医療体制構築に向けた指標の確立のための研究」とも連携し本研究を遂行する。

B. 研究方法

我が国における全国的循環器病データベースとして、循環器疾患診療実態調査 JROAD と脳卒中データバンクがある。これら既存のデータベースと National Database(NDB)の電子レセプト情報を活用する。

（倫理面への配慮）

「DPC データを用いた心疾患における医療の質に関する事業」研究について 2015.3.27 に国立循環器病研究センターにおける倫理委員会を通過（番号：M23-051-3）。

C. 研究結果

医療の質指標(QI)の理論的背景、その策定法を基礎

に、心不全診療に関するシステマティックレビューを行い、評価指標(QI)を作成した。心不全の QI 候補は、基本的にすでに各国で定義され実用に供されている指標、および科学的根拠に基づく診療ガイドラインで推奨されている指標を候補として抽出した。左室収縮能低下時の ACE 阻害剤/ARB 投与：過去 12 か月で、現在または過去に EF40% 未満の心不全患者で、ACE 阻害剤または ARB を投与されたもの。左室収縮能低下時の β 遮断薬投与：18 歳以上の入院心不全患者で、過去 12 か月以内に β 遮断薬投与を受けているもの心房細動を伴う患者に対する抗凝固療法：心房細動を伴う患者に対して、退院時にワルファリンまたは DOAC(NOAC)による抗凝固治療を受けたもの。左室収縮能測定：全ての心不全患者に対して、入院前、入院中または退院後に左室収縮能測定を行った/予定した記録があるもの。循環器疾患診療実態調査(JROAD)-DPC データベースでは、様式 1（診療録情報）をもとに収集した解析データセット 5 年間延べ～500 万件にまで蓄積構築。解析結果の一部を 2018.9 Circulation 誌にて発表した：他国に類を見ない速さで高齢化が進む我が国における循環器診療の実態、特に心不全患者の急激な増加について報告。脳卒中診療に関しては、日本脳卒中

データバンクのシステム改修と参加施設刷新を行い、脳卒中の再発例の特徴や急性期病院退院時の脳卒中スコア、自宅退院率に関する新たな患者データを集積中である。循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「既存データベースの活用による虚血性心疾患・大動脈疾患診療の実態把握ならびに医療体制構築に向けた指標の確立のための研究」(研究代表者：大阪大学大学院循環器内科学 坂田泰史教授)とも連携、心筋梗塞2次予防のためのガイドライン推奨薬剤の処方率が「医療の質」評価の指標となり得ることを論文発表した。日本循環器学会作成の「急性冠症候群ガイドライン(2019年改訂)」にはJROAD/JROAD-DPCを用いた医療の質評価が組み入れられた。日本全体の人口構成と類似している延岡市の国保/後期高齢者診療報酬請求情報・介護請求情報・特定健診情報収集を現地にて行った。2013年4月～2016年6月の間に脳梗塞(I63)、脳出血(I61)、クモ膜下出血(I60)の病名があり、入院した患者(1440人)について入院後の介護認定情報を解析した。また熊本大学付属病院の介護指示書のデータなどを用いた介護実態に関する実態を調査した：心臓疾患での介護申請は一般に少なく、また介入も内服管理、バイタル確認が多く、具体的な塩分制限や体重管理指示は少ないという問題点が明らかになった。

D. 考察

ナショナルデータベース(NDB)を用いて、我が国の心不全外来診療実態を明らかにすることを目指しているが、京大オンサイトリサーチセンターでは試行的利用段階に留まっているため、オー

プンデータを、JROADから得られた統計値を元に推測する目的で活用していく予定である。

E. 結論

悉皆性の高いビックデータを解析することで、診療の標準的データが可視化され、医療の質の底上げや各種医療行為の費用効果性検討につながる事が期待される。

F. 健康危険情報

特記事項なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Yasuda S, Miyamoto Y, Ogawa H. Current Status of Cardiovascular Medicine in the Aging Society of Japan. *Circulation*. 2018 Sep 4;138(10):965-967

2. 学会発表

循環器疾患診療実態調査(JROAD)を用いた多疾患罹患時代の診療の可視化. 口頭. 安田聡, 宮本恵宏, 住田陽子, 西村邦宏, 小川久雄. 第83回日本循環器学会学術集会 シンポジウム 26. 2019/03/31.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

特記事項なし

2. 実用新案登録

特記事項なし

3. その他

特記事項なし